

「捧げる人生は救いの人生」

～人生のすべての部屋を主に捧げよう！～

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」

マタイによる福音書11章28～30節

先週の木曜日は大和教会で「グローバル・リーダーシップ・サミット」というセミナーに参加させていただきました。そのセミナーは10数年継続されているもので、アメリカシカゴにある「ウィロー・クリーク・コミュニティー・チャーチ」が主催する世界的なセミナーで牧師だけではなく、すべてのリーダーと言われる人々にとって、また、すべての人々にとって大いに学びになる内容です。私も何度か学んだことがあります。その中でも主講師の一人である、主任牧師のビル・ハイベルズ先生の情熱に満ちた感動的な講義にほれ込んでいます。彼は40年間以上前から現在の教会を開拓し始め、仕え続けて現在は2万人以上の教会に成長しています。

最近出版されたハイベルズ師の「シンプルに生きる」という書物を読んでいます。その中で、「シンプルに生きる」ことの重要性を語りながら、それがなかなかできないと悩み、失敗してきた経験を語っています。私たちは仕事ができればできるほど、また、どんな人であっても、自分の人生、毎日の生活を整えていくことは簡単なことではありません。

以前ハワイでお世話になったウェイン・コデイロ先生の教えの中で聞いた内容ですが、「マージンを大切にしてください」。「マージン」とは日本語で「余白」と訳せる言葉です。先生はそのメッセージの中で、日本の「書道」の世界をご紹介されていて、「書」の中で重要なのはその字そのものが生き生きとするために、余白の使い方が重要であるとのことでした。もしも、余白が全くなく、ギリギリまで字を書いていたら、読みにくいし、美しくありません。それと同じように私たちの人生も余白がない人生、生活はバランスを欠き、健康的ではありません。ですから、私たちの人生の余白＝マージン＝遊びと言われる部分をもっと大切にしていかなければならないというメッセージが私の心に強く残っています。もちろん一つの働きを成し遂げた時の達成感というものはとても大切です。しかし、欲張りすぎて、あまりにも多くのことを自分の力でやろうとし過ぎてしまうことは良くありません。それは自己満足で終わってしまうかもしれません。私たちのすべての仕事は主にあってなされることです。私たちの全分野を主に明け渡すことからスタートしたいと思います。そして、主と共に主のために喜びと感謝を持ってすべてのことを実行していきたいと願っています。